

静岡

客船「クイーン・エリザベス」 清水港寄港決定

「清水港客船誘致委員会」は、今から30年前の1990年4月に産声をあげた。契機となったのは、その年の2月23日に初寄港した『クイーン・エリザベス二世号(QE II)』である。当日は、雨天にもかかわらず約6万人の市民がこの船を一目見ようと岸壁を訪れ、まさに『黒船』級の衝撃を市民にもたらした。それまで清水港は産業の港として市民生活を支えて来たが、どこことなく殺伐としていた。QE IIの寄港は、そんな殺伐とした空気を一瞬にして明るくし賑わいをも運んでくれる港の『華』であった。こうしたことから官民が連携し「清水港客船誘致委員会」を設立し「白い船を清水港に」という合言葉のもと客船誘致活動に乗り出した。

客船誘致活動は主に「誘致」と「歓迎」に分け展開している。「誘致」活動は、邦船3社をはじめ外国客船や帆船の寄港誘致に力を入れ国内はもとより2年に1回は海外にまで出掛け誘致活動を行っている。「歓迎」事業は、客船等が寄港した時に実施する歓迎セレモニー・歓送迎演奏・呈茶サービス・子供達の踊り・花火打上げ等で客船や乗船客に対するおもてなし事業である。これらの活動を30年近く地道に続けている。しかし、2012年度までは年に数隻の寄港で、外国客船は0という苦しい年もあった。なぜなら清水港の隣には横浜港という国内人気NO.1を誇る港があり、クルーズの日程上、清水港は近すぎるからだ。それが、好調に転ずるのが2013年頃からのクルーズブームによる外国船社の東アジアクルーズの本格化と「富士山世界文化遺産登録」である。さらに2017年には国際旅客船拠点形成港湾に指定され、清水港の知名度向上とともに寄港数も上昇し続けている。2012年度には5隻だったものが年ごとに増加し、2019年度には清水港史上最大となる『マジェスティック・プリンセ

ス』(船籍:英国、14万4千t)の寄港も含めて延べ49隻に達している。さらに2020年度には70隻もの寄港が予定されている。そして、ついに2020年4月28日(火)には念願の『クイーン・エリザベス(QE)』が寄港する。実に30年ぶりの帰港である。当日までに、船社・ランドオペレーターと連絡を密に取りながら乗船客に魅力ある寄港地観光の提案や地元関係者と連携し市内への回遊が高まり消費喚起につながるよう受入環境を整えて行きたい。そして、多くの乗船客が下船し静岡・清水のまちを闊歩することに期待したい。

清水港は神戸港、長崎港と並び「日本3大美港」といわれている。それは富士山を借景とする景色がとても素晴らしいからだ。乗船客の関心も当然、富士山。しかし、雨天等で富士山を見られない日もある。キーワードは「富士山+アルファ」。富士山だけではない静岡・清水ならではの特別な体験を提供し満足してもらうことが重要である。そして、この取組みは始まったばかり。「清水港客船誘致委員会」では、清水港がより多くの客船から寄港地として選ばれるよう、今後も官民が連携しての誘致活動を継続的に推進していく方針である。



1990年2月に初寄港したクイーン・エリザベス二世号